

方言や地名も勉強必要

何でも司法教室

弁護士
小西 碧さん



Q 弁護士も県外出身者が増えてきていると聞きます。島根の魅力や驚いたこと、苦労していることがあったら教えてください。

弁護士は、全国転勤こそありませんが、縁があった地に就職する人も増えていきます。私は東京の出身ですが、研修で訪れた島根の雰囲気ですっかり魅了されています。今年1月から松江で働いています。

浅い島根歴の中で、衝撃を受けたのは神楽でスサノオノミコトが出てきた時、小学生くらいの男の子が「うわぁ。神さん、かっこいい！」という感嘆の声を上げたことです。

島根は、神様が集う場所であることは知っていましたが、これほどまでに人と神の距離が近いことには驚きました。八雲の怪談や、お隣の妖怪もわかり。未知の何かがいるのが、山陰の魅力かもしれません。

仕事柄、未知との遭遇という島根の方言や地名です。依頼者と打ち合わせをする中で、方言が出てくることもあるのですが、その度に、もっとスムーズに話を聞くには方言も勉強しなくてはいけないと実感します。出雲弁のカルタや番付表があるのを最近知ったのですが、松江や大田は違う方言を使っていると聞くと、躊躇ちゆうちゆうしていません。

また、地名も苦労していることの一つです。交通事故の案件が多いのですが、土地勘が無いため、休みの日にはドライブと称して、現場を見に行き、土地勘を鍛えています。

弁護士としても島根県民としても新人。まだまだ、勉強が尽きません。

(大野法律事務所)